

今日の説教のポイント <創世記 11 章 10～32 節>

この系図の特徴に注目する時、神様の恵みが見えて来る。

①注目 1 系図の直前の箇所との関係

この系図でまず注目すべきは、バベルの人々が主によって全地に散らされた出来事の直後に記されているということです。延々と続く系図は、神様が最初に人間に命じられた「地に満ちよ」(1:28)には適っているけれども、広がったのは神に聞かない人間であるという点が問題です。神様はこの人間の広がりをごどう思われているのでしょうか？

②注目 2 系図の直後の箇所との関係

今度はこの系図の後に注目です。すると、この系図が行き着いた先の人物、アブラハムを神様が召し出される出来事が記されており、神様は彼のことを「**全ての民の祝福の源となる**」(12:2～3)と言われています。よって、長々と記された今日の箇所の系図は、神に聞かないで広がって行った人間がその間もなお神様に愛され、救いの計画をお持ちの神様の御手の中に置かれていたことを示しているのです！

③注目 3 以前の系図との関係

バベルの人々はノアの子ハムの子孫でありであり、正しくは今日のセムの系図には属しません(10章ノアの系図)。しかし、アブラハムまでの人間は全てアダムからの人間なのです(5章アダムの系図)。聖書では、神様の呼びかけに応答して立ち上がり従って行く「新しい人間」がアブラハムから始まるのです。それは生物学的な血で決まるものではありません。アブラハムから始まるイスラエル民族にも神に聞く者と聞かない者が存在します。大事なことは、新しい人間は神に聞いて生きる者となることから始まる、ということです。

④注目 4 短くなって行く寿命。しかし恐れることはない！

今日の箇所の系図の見た目の最大の特徴は、寿命がどんどん短くなって行くことかもしれません。これは5章の系図以来です。それは人間の罪から来るものと考えられています(6:3に注目！)。しかし、この神様に聞いて生きるなら、それも恐れることはないのです。神様は御子イエス・キリストをお与え下さり、御子の復活によって私達に永遠の命を用意して下さっていることを示して下さいからです！